
共同研究活動報告書

(92共83～92共89)

(凡 例)

1. 収録範囲

- ・この報告書は、本学総合研究所の共同研究プロジェクトの「研究活動報告書」を収録したものである。報告書は、活動終了後、概ね1996年1月までに提出されたものである。
- ・収録年度：1992年（平成4）年度から1994（平成6）年度に活動の通算83～89番中の7プロジェクトを記号順に収録した。

2. 研究活動報告書の構成

- (1) 総括：共同研究の研究目的に照して、どの程度まで研究が推進されたかを自己評価したもの。
- (2) 研究成果：共同研究およびこれに関連する成果（著書、論文、学会報告等）。研究成果と共同研究との関連度は、テーマ、研究費負担額等を考慮して、研究スタッフ各自が評価したものであり、かなり幅のあるものである。
 - A プロジェクト研究そのもの。
 - B プロジェクト研究との関連の大きいもの。
- (3) 活動日誌：研究会、調査、ヒアリング、資料収集等の研究活動日誌。

3. その他

- ① スタッフの所属は、活動当時のものを本学を基準に示している。
- ② 研究成果は、報告のあったものを収録した。ただし記載方法は、収録の際修正した。また、実質的に継続しているプロジェクトの成果は、一般的に妥当と思われる時期のプロジェクト成果として記載収録している。
- ③ 年号は原則として、西暦を使用した。
- ④ 誌名のうち、本学の紀要類については、大学名は略し、巻号は1-1（第1巻第1号）で、号は2（第2号）で示した。例：『経済経営論集』1-1、『キリスト教論集』2、その他については必ずしも統一されていない。
- ⑤ 日誌は、原則として『総合研究所紀要』の日誌部分を再録した。記載方法は、できる限り統一をはかったが、記録の不備等により、果たせなかった部分もある。

プロジェクトおよび予算執行額一覧

共同研究プロジェクト

	プロジェクト 記号	テ マ	研究期間（年数）	金額（円）
1	92共83	被差別部落の歴史・文化・現状に関する総合的研究 （Ⅳ）	92.4～95.3（3）	1,989,876
2	92共84	芥川龍之介の読書書誌 —比較文学書誌—	92.4～95.3（3）	1,571,000
3	92共85	平和原理の探究（Ⅲ） —日本の安全保障—	92.4～95.3（3）	1,778,000
4	92共86	ことばと論理 —その比較文化的・言語哲学的研究—	92.4～95.3（3）	3,600,000
5	92共87	東アジア諸国における米の生産・流通・貿易・政策 に関する実証的研究	92.4～95.3（3）	1,642,027
6	92共88	現代日本経済の研究 —高度成長の多面的研究—	92.4～95.3（3）	1,891,853
7	92共89	「共生」社会—文化的多元主義に関する学際的研究—	92.4～95.3（3）	2,151,996
合 計				14,624,752

記号の意味：〔例〕 92共89→1992年度開始，通算89番目のプロジェクトを表わす。

被差別部落の歴史・文化・現状に関する総合的研究(Ⅳ)

1 総 括

(1) 研究目的およびプログラムの到達度評価

本プロジェクトの研究目的は、被差別部落の歴史・文化・現状を究明し、部落差別の発生経緯・本質・解放の方向を探ることであった。その際、実際に各地の部落へ行き、聞き取り調査を行うとともに、関係資料を収集・整理し、かつ学際的にアプローチすることを重視してきた。

'92年度には愛媛県、'93年度には高知県、'94年度には三重県の部落で現地調査を行った。あわせて年間、3～4回の研究会を実施した。それらの研究成果は、プロジェクト参加メンバーの論文に反映されている。なかでも、沖浦・蔵田・寺木の関連度Aの諸論稿は、本プロジェクトの研究・調査活動と深いかかわりをもって書かれたものである。寺木の「最後の雑賀一揆参加者の末路」は、主として高知県・三重県の現地調査に基づいて作成されたものである。

このように本プロジェクトの研究目的は、相当程度、達成されたと考えられるが、一定地域での系統的研究という面で弱く、かつ、さまざまな学問領域からの学際的研究という面で不十分さがあったと思われる。

(2) 研究スタッフ

氏 名	所 属	研究課題の役割および相互連関
(代表) 寺 木 伸 明	文学部	近世部落史に関する研究
(会計) 林 陸 雄	文学部	教育と部落問題に関する研究
岩 津 洋 二	文学部	部落問題の文化人類学的研究
小 田 亮	文学部	ケガレ意識の文化人類学的研究
沖 浦 和 光	文学部	賤民文化及び水平運動史に関する研究
蔵 田 雅 彦	文学部	アジアの差別問題との比較研究
藤 間 繁 義	文学部	宗教と部落問題に関する研究
原 山 煌	文学部	ケガレ意識の歴史的研究
Philip Billingsley	文学部	馬賊の世界におけるタブー意識に関する研究
深 澤 徹	文学部	差別の淵源の歴史文化的研究
村 田 恭 雄	文学部	部落差別意識に関する研究
柳 父 章	文学部	部落差別と異民族差別との比較研究
林 宏 作	文学部	中国における差別問題に関する研究

※村田恭雄は1992年度のみ参加

2 研究 成 果

著書または論文その他

著 者 名	関連度	書名または論文名等→出版社名または書誌(巻号)名等→発行年月
寺 木 伸 明	A	『被差別部落の起源とは何か』 明石書店 1992年 9月
寺 木 伸 明	B	「被差別部落および部落史にかかわる重要概念の規定をめぐって——上杉聰氏との論争をふまえて——」『桃山学院大学人権問題研究・資料室報』19 1992年12月
寺 木 伸 明	A	「大阪地域における近世被差別部落の人口動態とその背景についての一考察——河内国丹北郡更地村内の近世部落を中心として——」『人間科学』5 1993年 9月
寺 木 伸 明	B	「部落史入門——前近代と解放の展望を中心として——」 部落解放研究所編『部落解放の視点』 解放出版社 1994年 4月
寺 木 伸 明	A	「最後の雑賀一揆参加者の末路——土佐の事例を中心として——」『解放の真宗』3 1996年 3月
林 陸 雄	B	「筋ジストロフィー症児：A君兄弟から学んだ人間理解の原点」『人間の医療の実践』 サンプルート・看護研修センター 1994年 6月
林 陸 雄	B	「職業選択とその社会経済的背景」『キリスト教論集』31 1995年 3月
沖 浦 和 光	A	「アジアの聖と賤」『部落解放』352号 1993年 1月
沖 浦 和 光	A	高橋貞樹『被差別部落千年史』 校注 岩波書店 1992年12月
沖 浦 和 光	B	「天皇王権と瀬戸内の海賊」『別冊歴史読本』 1993年 7月
沖 浦 和 光	B	「隼人舞の源流をめぐって」『舞踊文化』第2号 1994年 1月
沖 浦 和 光	A	「古代の〈貴・賤観〉から中世の〈浄・穢観〉へ」『部落解放と大学教育』第10号 1994年 1月
沖 浦 和 光	A	「東南アジアにおける被差別民の芸能」学習院大学東洋文化研究所・アジア研究プロジェクト 1994年
沖 浦 和 光	A	「解放運動の新次元へ」『部落解放』 1994年 3月
沖 浦 和 光	A	「触穢思想と斃牛馬処理」『部落解放と大学教育』第11号 1994年 8月
沖 浦 和 光	B	「韓国の放浪芸と日本の放浪芸」『部落解放』 1994年10月
蔵 田 雅 彦	A	「アジアのマイノリティ差別と人権運動」『共に生きるアジア』 部落解放研究所 1992年 6月
蔵 田 雅 彦	A	「アジアのエスノナショナリズムと日本のマイノリティ」『人間科学』4 1993年 3月
蔵 田 雅 彦	B	『隣人としてのアジア』 日本基督教団出版局 1993年 8月
原 山 煌	B	「天は自ら助くるものを助く——北アジア遊牧騎馬民族の信仰形態をめぐって——」『大モンゴル2 幻の王プレスター・ジョン 世界征服への道』 角川書店 1992年 6月
原 山 煌	B	「モンゴルの女性の頬は紅」『化粧文化』30 1994年 5月
原 山 煌	B	『モンゴルの神話・伝説』 東方書店 1995年 2月
原 山 煌	B	平凡社刊『世界民族問題事典』の項目執筆 1995年 9月 「インジナージ」「ジェブツンダムバ・オ・トクト」「ジャムツァラー

- ノ」「征服王朝論」「チャンジャ・ホトクト」「チンギス・ハーン」「辮髪」「リンチン」
- Philip Billingsley B “ANARCHISTS AND THE MAY 4 MOVEMENT IN CHINA (2) by Nohara Shiro” 『人間科学』 4 1993年3月
- Philip Billingsley B “Bakunin’s Sojourn in Japan: Nailing Down an Enigma (1)” 『人間科学』 5 1993年9月
- Philip Billingsley B “A CHINESE BANDIT NOVEL: *LONG NIGHT* by Yao Xu-eyin (4)” 『国際文化論集』 9 1994年2月
- Philip Billingsley B “Bakunin’s Sojourn in Japan: Nailing Down an Enigma (2)” 『人間科学』 7 1994年9月
- Philip Billingsley B “A CHINESE BANDIT NOVEL: *LONG NIGHT* by Yao Xu-eyin (5)” 『国際文化論集』 11 1995年1月
- Philip Billingsley B “Bakunin’s Sojourn in Japan: Nailing Down an Enigma (3)” 『人間科学』 8 1995年1月
- 深澤 徹 B 「＜外部＞の導入」『中世文学』 中世文学会 1996年3月
- 柳父章 B 「日韓・言語表現と人間関係の対応の比較」『総合研究所紀要』 18-3 1993年3月
- YANABU Akira B “The Tenno System as the Symbol of the Culture of Translation” JAPAN REVIEW No. 7 国際日本文化研究センター 1996年4月

学会報告等

- | 発表者名 | 関連度 | 報告論題名→学会または団体名→発表年月 |
|--------|-----|--|
| 寺木 伸 明 | B | 「最後の一向一揆と被差別部落の起源」 解放真宗研究会 1994年9月 |
| 原 山 煌 | B | 「英雄伝説のできあがるまで——講談速記本から見える世界——」
共・旭堂小南陵 本学公開対談会「ニューキャンパスからの視点 第8回」 1993年10月 (のち「アンデレクロス」64 1994年1月 『ニューキャンパスからの視点—「公開対談会」対談集』1995年4月に収録) |
| 原 山 煌 | B | 「チンギス・ハーンの伝説」 1994年度本学公開講座〔歴史・人間・生活〕 1994年11月 |
| 原 山 煌 | B | 「馬とモンゴル」 いづみ健老大学特別講座 1995年5月 |
| 深澤 徹 | B | 「幸若『入鹿』拾遺」 中世文学会大会 1995年5月 |
| 柳父章 | B | 「翻訳文化としての天皇制」 国際日本文化センター 1995年3月 |
| 柳父章 | A | 「人権という言葉の意味」 地域の国際交流を進める南河内の会 1996年2月 |

3 活 動 日 誌

1992年度

1992年

- ・7月12日 研究会「穢れとメタファー」報告者：小田亮 参加者：岩津洋二，沖浦和光，寺木伸明，藤間繁義，深澤徹，柳父章，他に山川偉也 場所：本学，人権問題研究・資料室

- ・ 11月20日 研究会「橋のたもとの物語——宇治の時空間——」報告者：深澤徹 参加者：小田亮，寺木伸明，P. Billingsley，柳父章 場所：本学，人権問題研究・資料室
- ・ 12月15日 研究会「土農工商の由来と近世身分制の実相——近世身分制再考——」報告者：寺木伸明 参加者：沖浦和光，深澤徹，柳父章，佐藤克繁 場所：本学，人権問題研究・資料室

1993年

- ・ 2月13日 研究会「近世身分再考——土農工商と実態との乖離——」報告者：寺木伸明 参加者：P. Billingsley，他にゴンザレス ダリオ 場所：本学，人権問題研究・資料室
- ・ 3月26日～28日 調査「愛媛県内の被差別部落での現地研修，古老からの聞き取り，史料収集」〔地元協力者：吉森勝己氏，宇都宮富夫氏（八幡浜），宮本雄二氏，浅見静義氏（宇和島），和田武広氏（松山）〕 参加者：岩津洋二，沖浦和光，寺木伸明，柳父章，林宏作，他にゴンザレス ダリオ 場所：愛媛県八幡浜市，宇和島市，松山市の被差別部落
- ・ 3月30日 調査「近畿地方の被差別部落の近世関係史料調査」（寺木伸明） 場所：東京，公文書館（千代田区） 国立史料館（品川区）

1993年度

1993年

- ・ 5月14日 研究会「巫魂の裔——知識人を通してみた古代都市のメディア状況」報告者：深澤徹 参加者：寺木伸明，他にゴンザレス ダリオ 場所：大阪難波，ホテル南海
- ・ 6月23日 研究会「巫魂の裔——知識人を通してみた古代都市メディア状況(2)」報告者：深澤徹 参加者：沖浦和光，小田亮，寺木伸明，原山焯，他にゴンザレス ダリオ，武田久義 場所：本学，人権問題研究・資料室
- ・ 7月13日 研究会「モンゴルのイヌ——再考」報告者：原山焯 参加者：沖浦和光，寺木伸明，深澤徹，他に武田久義 場所：本学，人権問題研究・資料室

1994年

- ・ 3月27日～31日 調査「高知県各市での被差別部落の現状・文化の聞き取り調査」参加者：岩津洋二，沖浦和光，小田亮，寺木伸明，藤間繁義，林陸雄，柳父章，林宏作，他にゴンザレス ダリオ，竹中暉雄 場所：高知県室戸市，土佐市，南国市，高知市

1994年度

1994年

- ・ 5月27日 研究会「もう一つの終末観——百王思想をめぐる——」報告者：深澤徹 参加者：沖浦和光，小田亮，寺木伸明，柳父章，他にゴンザレス ダリオ 場所：本学，人権問題研究・資料室
- ・ 7月8日 研究会「民族問題の人類学」報告者：小田亮 参加者：沖浦和光，寺木伸明，深澤徹，柳父章，他にゴンザレス ダリオ 場所：本学，人権問題研究・資料室
- ・ 11月18日 研究会「豚の話——ケガレと神聖」報告者：井本英一 参加者：岩津洋二，沖浦和光，寺木伸明，原山焯，深澤徹，他に国松夏紀，滝澤武人，武田久

義, 山川偉也 場所: 本学, 人権問題研究・資料室

1995年

- ・ 3月19日～21日 調査「熊野・志摩・伊勢の被差別部落の歴史・文化・現状調査」参加者: 岩津洋二, 沖浦和光, 寺木伸明, 林宏作, 柳父章, 他に国松夏紀, ゴンザレス ダリオ, 谷本泰三, 萩原直之, 山川偉也 場所: 和歌山県新宮市, 三重県熊野市, 鳥羽市, 伊勢市, 磯部町

研究課題（テーマ） 芥川龍之介の読書書誌 ——比較文学書誌——

研究期間 1992年4月～1995年3月（3カ年）

1 総 括

(1) 研究目的およびプログラムの到達度評価

当共同研究プロジェクトは日本近代文学に大きな足跡を残している芥川龍之介に関する研究の一つである。芥川の死（自殺）は「大正」の終わりを告げるとも言われる。この芥川はテキストのある作品を多く世に出したことで知られる。そうしたテキスト主義とでもいえるその小説作法が、どこから来たのかを知ろうとする研究もまた重ねられて来た。そうした研究、主張の重要な部分に、芥川における濫読・博学が位置している。しかし実際にどういった著作を、どの時期に、どれ位読んだかという把握は十分にはされていない。そこで、芥川の読書の書誌を作成しようとしたのが当プロジェクトであった。その成果は一部当報告の内にあらわされている。また残りは、この報告の時点にあってもなお進行中である。

芥川の読書量は巨大なものである。そして彼の得た作家的最大の感概は、「人生は——のボードレールにも如かず」ということであろう。彼はあまりにも多くを読み、その摂取力の豊かさのゆえにテキスト主義に入ったと見るのが、一つの立場として許されよう。

(2) 研究スタッフ

氏 名	所 属	研究課題の役割および相互連関
(代表) 赤 瀬 雅 子	文 学 部	比較文学的観点を中心とした、読書記録の評価及び総括
(会計) 志保田 務	文 学 部	同書誌の立案、方法、進行、編集の幹事及び会計
国 松 夏 紀	文 学 部	比較文学的評価研究
出 原 博 明	文 学 部	比較文学的評価研究
清 水 昭 治	非常勤講師	書誌入力に対する評価研究
西 田 文 男	非常勤講師	書誌入力に対する評価研究
根 岸 伴 子	非常勤講師	書誌入力に対する評価研究
吉 田 憲 一	非常勤講師	書誌入力に対する評価研究
三 浦 整	学 外 者	書誌入力協力
水 田 登	学 外 者	書誌入力協力
山 田 忠 彦	学 外 者	書誌入力に対する評価研究及び書誌入力

※国松夏紀、出原博明、三浦整、水田登、山田忠彦は1994年度のみ参加
根岸伴子、清水昭治は1992年度、1993年度参加

2 研究 成 果

著書または論文その他

著 者 名	関連度	書名または論文名等→出版社名または書誌(巻号)名等→発行年月
赤 瀬 雅 子	B	「永井荷風『濯東綺譚』作品論集成」(高橋俊夫編の共著) 1995年3月
赤 瀬 雅 子	B	「種田政明の系譜」『明治村通信』第262号 1992年4月
赤 瀬 雅 子	B	「永井荷風の批判精神——『断腸亭日乗』にみる韓国観を中心として——」『総合研究所紀要』18-1 1992年6月
赤 瀬 雅 子	B	「孤独への軌跡——永井荷風の七十九年——」『鳩よ』第11巻第2号 1993年2月
赤 瀬 雅 子	B	「日本近代文学にみる船旅——魯文, 荷風, 前田河, 岸田——」『人間科学』6 1994年1月
赤 瀬 雅 子	B	「描かれた上海——1990~1931——」『国際文化論集』11 1995年1月
赤 瀬 雅 子	B	「大正のフランス文学——近代文学のベレポック——」『人間科学』8 1995年1月
赤 瀬 雅 子	B	「成島柳北——儒学と江戸文芸とフランス学——」『人間科学』4 1993年3月
赤 瀬 雅 子	A	「ファミ・ファタルと舞踏——芥川とメリメに関連させて——」『国際文化論集』8 1993年8月
赤 瀬 雅 子	B	「時を操る港横浜——横浜を凝視した作家群像——」『国際文化論集』10 1994年7月
赤 瀬 雅 子	A	「芥川文学における都市——芥川龍之介の読書書誌研究から得たもの——」『総合研究所紀要』20-2 1994年12月
赤 瀬 雅 子	B	「ヴェネチアの祝祭」『日本比較文学会関西支部ニューズレター』第5巻第1号 1993年4月
赤 瀬 雅 子	B	「山川篤著『花袋・フローベール・モーパッサン』の書評」『比較文学』第36号 1995年3月
志保田 務	B	「書誌記録の単位・レベル: 議論の蓄積とその意義」『TP&Dフォーラム・シリーズ』No. 1 1992年6月
志保田 務	A	「若い日の芥川龍之介: 読書書誌」『整理技術研究』No. 31 1992年6月
志保田 務	A	「芥川龍之介の文壇登場を支えた読書: 鼻・芋粥・羅生門時代の芥川龍之介の読書遍歴: 書誌」『整理技術研究』No. 32 1992年12月
志保田 務	B	「書誌情報の標準化と OPAC——1990年代以降の動向と発展」『図書館界』45(1) 1993年5月
志保田 務	B	「『日本目録規則1987年版』改訂の動向と問題点——1992年改訂版草案の検討」『図書館界』45(5) 1994年1月
志保田 務	B	「書評『分類と索引とデータベース: 山田氏追悼の論文集に対する書評 山田常雄氏追悼論文集』」『整理技術研究』No. 28 1991年2月
出 原 博 明	B	「Nick Carraway は水を漏らしているか? ——The Great Gatsby 研究——」『英米評論』9 1994年12月

- 西田文男 B 「参考業務(演習)テキストの検討」(共著)『図書館界』46(2) 1994年7月
- 西田文男 B 「参考業務演習教育の検討」(共著)『図書館界』47(2) 1995年7月
- 吉田憲一 B 「参考業務(演習)テキストの検討」(共著)『図書館界』46(2) 1994年7月
- 吉田憲一 B 「参考業務演習教育の検討」(共著)『図書館界』47(2) 1995年7月
- 吉田憲一 B 主題検索とOPAC『図書館学会年報』40(2) 1994年
- 三浦整 A 「芥川龍之介の文壇登場を支えた読書：鼻・芋粥・羅生門時代の芥川龍之介の読書遍歴：書誌」(共著)『整理技術研究』No. 32 1992年12月
- 山田忠彦 A 「若い日の芥川龍之介：読書書誌」(共著)『整理技術研究』No. 31 1992年6月
- 山田忠彦 A 「芥川龍之介の文壇登場を支えた読書：鼻・芋粥・羅生門時代の芥川龍之介の読書遍歴：書誌」(共著)『整理技術研究』No. 32 1992年12月

学会報告等

- | 発表著名 | 関連度 | 報告論題名→学会または団体名→発表年月 |
|------|-----|--|
| 赤瀬雅子 | B | 「描かれた横浜——文学——」日本仏学史学会 1994年5月 |
| 志保田務 | B | 「相対目録法の「発見」に関する一検討：非基本記入方式の成立時期を巡って」『図書館学会年報』39(4) (1993.12) に報告 1993年10月 |
| 志保田務 | B | 「目録法の蓄積と現代的課題 於：兵庫県中央労働センター NCR92 改訂まで」日本図書館研究会研究大会：第35回 1994年2月 |
| 志保田務 | B | 「書誌データの変遷と標準目録規則・分類表オンライン時代の書誌記述と主題索引」平成4年度(第2回)私立大学図書館協会阪神地区研究会 於：摂南大学 1993年10月 |
| 西田文男 | B | 「参考業務(演習)テキストの検討」(共同発表)日本図書館研究会 1994年2月 |
| 西田文男 | B | 「参考業務演習教育の検討」(共同発表)日本図書館研究会 1995年2月 |
| 吉田憲一 | B | 「参考業務(演習)テキストの検討」(共同発表)日本図書館研究会 1994年2月 |
| 吉田憲一 | B | 「参考業務演習教育の検討」(共同発表)日本図書館研究会 1995年2月 |
| 吉田憲一 | B | 「OPACと主題検索」第41回日本図書館学会研究会 1993年10月 |

3 活動日誌

1992年度

1992年

- ・ 4月5日 調査「文献調査」(志保田務) 場所：東京世田谷，日本図書館協会
- ・ 5月1日 会合「芥川索引作成経過確認」参加者：志保田務，清水昭治，吉田憲一 場所：大阪阿倍野，ホテル・エコー
- ・ 5月31日 調査「芥川の著作および行動をめぐる調査」参加者：志保田務，吉田憲一 場所：東京，一橋大学 国立市立図書館 日本図書館協会

- ・ 7月23日～24日 調査「芥川関係文献収集」（志保田務） 場所：東京世田谷，日本図書館協会

1993年度

1993年

- ・ 5月27日 ①研究会「情報提供システムの検討」 ②見学「大阪府立大学総合情報センター」 参加者：赤瀬雅子，志保田務，吉田憲一 場所：堺市，大阪府立大学
- ・ 6月20日 研究会「芥川龍之介研究と資料」 講師：山田忠彦氏（京都大学文学部図書室係長） 参加者：赤瀬雅子，志保田務，西田文男，吉田憲一 場所：堺市，大阪女子大学図書館 大阪難波，ホテル南海
- ・ 10月1日 会合「今後の研究の進め方」 参加者：志保田務，清水昭治，西田文男，学外より山田忠彦（京都大学） 場所：大阪中央区，近鉄グリラ
- ・ 10月16日 文献調査（志保田務） 場所：東京町田市，相模女子大学
- ・ 11月7日 研究会「芥川の文壇登場期の読書書誌」 報告者：志保田務 参加者：清水昭治，西田文男，根岸伴子，学外より森田敏治（大阪女子大学），山田忠彦（京都大学） 場所：堺市，大阪女子大学図書館会議室
- ・ 11月27日 研究会「海軍兵学校教官時代の芥川の読書と作品——大阪毎日新聞への転身の試み——」 参加者：志保田務，清水昭治，西田文男，学外より森田敏治（大阪女子大学），山田忠彦（京都大学） 場所：堺市，大阪女子大学図書館会議室

1994年度

1994年

- ・ 4月14日 会合「芥川読書書誌採録の打合せ」 参加者：赤瀬雅子，志保田務，西田文男，吉田憲一 場所：大阪城東区，海南亭
- ・ 5月25日 文献調査（志保田務） 場所：堺市，大阪女子大学図書館
- ・ 6月5日 研究会「芥川の著作における材源の検討」 報告者：志保田務 参加者：赤瀬雅子，西田文男，吉田憲一 場所：堺市，大阪女子大学図書館
- ・ 7月8日 研究会「Word Perfect の実際的検討——書誌作成を中心に」 講師：テレンス J・オブライエン氏（本学非常勤講師） 参加者：赤瀬雅子，国松夏紀，志保田務，吉田憲一 場所：本学，計算機センターA実習室
- ・ 9月4日 研究会「芥川の著作と基盤の読書——大阪女子大学蔵書を対象に」 報告者：志保田務 参加者：赤瀬雅子，国松夏紀，出原博明，西田文男，学外より山田忠彦（京都大学） 場所：堺市，大阪女子大学

1995年度

1995年

- ・ 3月10日～14日 資料収集「種田政明氏（研究冊子発行者）より書籍その他の資料」（赤瀬雅子） 場所：東京品川区

研究課題(テーマ) 平和原理の探求 ——日本の安全保障(Ⅲ)——

研究期間 1992年4月～1995年3月(3カ年)

1 総 括

(1) 研究目的およびプログラムの到達度評価

安全保障を単に軍事的側面ならず、経済的、法制的(2国間もしくは多国間条約及び国連のような国際機関)、社会的(NGOなど)側面を含んだ総合的な視点より研究を進めた。多面的、総合的かつ学際的な分析が、国際政治学、経済学、法律学、文化研究、宗教学等の観点からなされた。結果は、研究集会への参加、現地調査、そして合宿研究集会へと発展し、各々が様々な形で論文等にまとめた。とりわけ、1989年の東欧の自由化・民主化に端を発した戦後世界政治の枠組みの激変、ソ連でのクーデターの失敗とその後の共産党解体に着目し、ソ連邦・ロシアの動向に着目した。また、東アジアは未だ大きな変化を経験していないことを踏まえて、中国状況が及ぼす潜在的な問題を考慮した。中ソ問題に直面した、我々は日米同盟の効用と限界を検討しながら、国連などの国際機関の役割にも注意を払った。更に、国内の法制問題や危機管理などのあり方についての議論から、我が国が安全保障の分野で国内的になすべき政策を考察した。

(2) 研究スタッフ

氏名	所属	研究課題の役割および相互連関
(代表) 村山高康	社会学部	現代政治の理論と思想の研究
(会計) 望月和彦	経済学部	経済面からみた安全保障の研究
勝部元	名誉教授	日本と世界各地の平和運動の理論と歴史の研究
鈴木博信	社会学部	旧社会主義国ならびに国際的な政治・軍事体制の研究
藤間繁義	文学部	宗教者及び宗教学の立場からの平和運動の研究
福田菊	社会学部	国連PKOとNGOの平和運動の研究
藤澤道郎	文学部	イタリアファシズム論及び政治イデオログの研究
前田徹生	経済学部	日本国憲法の平和主義を起点とした安保・自衛隊の政治・法学的研究
松村昌廣	社会学部	国際関係と安全保障の研究
森本良男	社会学部	国際的なマスコミュニケーションと平和維持の研究
村上公敏	非常勤講師	東南アジアを中心とする研究
松田聡子	学外者	国際関係と安全保障の研究

2 研究 成 果

著書または論文その他

著 者 名	関連度	書名または論文名等→出版社名または書誌(巻号)名等→発行年月
望 月 和 彦	A	「戦略的貿易政策——その背景と問題点」『経済経営論集』34-1 1992年5月
望 月 和 彦	B	「日本のコメ生産構造とコメの市場開放問題に対する一考察」『大阪大学経済学』第42巻第3・4号 1993年3月
勝 部 元	A	「日本の無条件降伏と原爆」『戦争と平和』『大阪国際平和研究所紀要』1994年3月
前 田 徹 生	B	「森林法違憲判決の法理とその意義」『経済経営論集』34-3 1992年9月
前 田 徹 生	B	「経済的自由規制立法の違憲審査基準」『現代憲法の理論と現実』青林書院 1993年5月
前 田 徹 生	B	「生存権の法的性格(2)」『別冊法学セミナー憲法Ⅱ』日本評論社 1994年5月
前 田 徹 生	B	「裁判にみるプライバシー・個人情報の諸判例」「個人情報保護条例による規制の種類」『民間部門が保有する個人情報保護』大阪市 1994年7月
前 田 徹 生	B	「酒類販売の免許制」『憲法判例百選Ⅰ』有斐閣 1994年9月
前 田 徹 生	B	「裁判にみるプライバシー」『興信所110番』民事法研究会 1994年11月
松 村 昌 廣	A	“Internationalization of The Bureaucratic Politics Model: U. S. -Japan Relations in the late 1980s”『社会学論集』26-2 1992年12月
松 村 昌 廣	A	“Legal Approaches to Terrorism As a Form of International Politics: The Reagan and Bush Administrations”『総合研究所紀要』19-1 1993年8月
松 村 昌 廣	A	“Japanese and U. S. Approaches to Aid, Public Lending, Direct Investment and Trade: Commercial Competition Effect and its Political Implications”『総合研究所紀要』19-2 1993年12月
森 本 良 男	A	「8月政変後の旧ソ連諸共和国の動向」『市場経済の道を進むソ連経済改革に関する調査研究』東西問題研究所 1992年3月
森 本 良 男	A	「C I Sの政治情勢」『分離と統合のベクトルで動くC I Sに関する調査研究』東西問題研究所 1994年3月
森 本 良 男	A	「ポスト・エリツィンのロシアとC I S」『ポスト・エリツィンのロシアとC I Sに関する調査研究』東西問題研究所 1995年3月
森 本 良 男	A	「いまこそ“清貧のサミット”を」『This is 読売』読売新聞社 1993年7月
森 本 良 男	A	『冷戦・人と事件』サイマル出版会 1995年4月
松 田 聰 子	B	『現代憲法の理論と現実』(共著) 青林書院 1993年5月
松 田 聰 子	B	「憲法上のプライバシーの権利についての一考察」『帝塚山学院大学一般教養課程研究紀要』1 1993年12月

- 松田 聰子 B 「女性の優先処遇」『別冊法学セミナー司法試験シリーズ憲法』Ⅱ 日本評論社 1994年5月
- 松田 聰子 B 『興信所 110 番——その契約・調査・プライバシー』（共著） 民事法研究会 1994年11月

学会報告等

- | 発表者名 | 関連度 | 報告論題名→学会または団体名→発表年月 |
|-------|-----|--|
| 藤間 繁義 | B | “World-Wide Solidarity of C. U. A. C. and Basic Idea of Learning in Service.”
C. U. A. C. (Colleges and Universities of Anglican Communion (世界聖公会大学連合) のフィリッピン・ケリン市トリニティ大学で開催された国際シンポジウムで発題。1995年7月 |
| 前田 徹生 | B | 「経済的自由規制立法の違憲審査基準」中四国法政学会 1993年7月 |
| 松村 昌廣 | A | “Entrapped In Historical Structure: The Case of Chinese Empire”, The Western Social Science Association. 1992年4月 |

3 活動日誌

1992年度

1992年

- ・ 6月23日 研究会「比較政治論からみた現代中国政治」 報告者：松村昌廣 参加者：福田菊，藤澤道郎，前田徹生，村山高康，望月和彦，森本良男，村上公敏，他に上野勝男，敵善平 場所：大阪梅田，関西文化サロン
- ・ 11月12日～13日 セミナー参加「冷戦終結とソ連解体後の世界の安全保障問題（日本・NATO安全保障セミナー）」 参加者：森本良男，他に日本・欧米各国の外交・軍事問題専門家 場所・東京千代田区，外務省

1993年

- ・ 2月15日 合宿研究会「PKOの変容と問題点」 参加者：藤間繁義，福田菊，藤澤道郎，前田徹生，松村昌廣，村山高康，望月和彦，森本良男 場所：石川県小松島市，瀬領温泉十右衛門
- ・ 2月17日 講演会参加「国連事務総長講演会『国際連合と地域機関との協力』（福田菊） 場所：東京，ホテルオークラ

1993年度

1994年

- ・ 1月16日 会合参加「国連ボランティアについて」〔中田厚仁記念国連ボランティア活動支援事務所主催〕（福田菊）〔参加者：120名〕 場所：大阪中央区，大阪市立中央青年センター
- ・ 1月17日 研究会参加「ミャンマーの人権の現状：国連人権委員会の特別報告者として」（福田菊）〔参加者：横田洋三国際基督教大学教授ほか〕 場所：東京渋谷区，国連大学
- ・ 2月8日～11日 ①会合参加「ロシアの現状分析・予測を聞く：枝村前ロシア大使を囲む会」
②調査「ロシア（ペテルブルグ市）関係の文献所蔵調査」（鈴木博信）〔参加者：甲斐原文夫日本記者クラブ会員ら50名ほど〕 場所：東京千

- 代田区, 日本記者クラブ, 国立国会図書館
- ・ 2月16日 講演会参加「旧ユーゴ調査チームの派遣結果について」〔角茂樹外務省総合外交政策局平和協力室長, 横田洋三国際基督教大学教授ほか〕(福田菊)
場所: 東京渋谷区, 国連大学
 - ・ 2月19日 資料収集(望月和彦) 場所: 東京
 - ・ 3月3日 調査「サンクト・ペテルブルグ市の市議会選挙取材および同市ユダヤ人の西欧
～4月5日 とイスラエルへの移住動向の取材」(鈴木博信) 場所: ロシア連邦, サンク
ト・ペテルブルグ市 フランス, パリ市 イスラエル, テルアヴィヴ市

1994年度

1994年

- ・ 5月23日 研究会「ノーマンクラトゥーラはどこへ行ったのか」 報告者: 鈴木博信 参
加者: 福田菊, 藤澤道郎, 前田徹生, 松村昌廣, 村山高康, 望月和彦,
森本良男, 村上公敏, 松田聡子 場所: 大阪梅田, 関西文化サロン
- ・ 11月8日～10日 国際シンポジウム参加「国家安全保障と国家の競争力——公開情報を使って:
OSS主催第3回」(松村昌廣) 場所: 米国ヴァージニア州アレキサン
ドリア市, ラディソンホテル

1995年

- ・ 1月7日～9日 研究会参加「庇護申請における政治的迫害の概念について(連邦憲法裁判所
1991年1月23日第2部決定: ドイツ憲法判例研究会) 報告者: 川又伸彦
氏(女子美術大学)」(前田徹生) 場所: 東京, 上智大学7号館第2会
議室
- ・ 1月27日～30日 研究会参加「①欧州の地域的安全保障と制度的枠組 ②日米関係と軍事技術
③危機管理体制: (財)平和・安全保障研究所主催セミナー」(松村昌廣)
場所: 東京, 日本海運倶楽部ほか
- ・ 2月9日～10日 合宿研究会「安全保障と災害」 報告者: 村山高康, 松村昌廣 参加者: 藤間
繁義, 前田徹生, 森本良男, 村上公敏, 松田聡子 場所: 石川県小松市,
小松グランドホテル

1 総 括

(1) 研究目的およびプログラムの到達度評価

この共同研究の目的は、論理思想をその歴史的根源に遡って、発生・発展の現場において、日常言語のあり方と密接不可分な姿において捉えるとともに、言語と論理の相関関係を比較文化や比較言語学の観点から、しかも多言語的に研究するというところに置かれた。このアプローチについては、その独自性が評価されてか、日本私学振興財団研究振興資金助成対象となり、それなりの便益を得ることができた。テキストとしての Kneale の論理学史の一括購入等資料の整備もその一環であった。そして、それなりの成果は得られた。

現段階において総括的観点からふりかえってみると、しかし、問題がなかったわけではない。論理思想史の書きかえという課題や論理思想と言語理論の文化のディメンジョンからする考察などについてはそれなりの成果が挙げたが、「翻訳」理論の精緻化という課題は十分に追求することができなかった。つまり、全体としての共同研究の目的がいささか遠大なものに過ぎ、共同研究としての収斂性に欠けるところがあったということである。継続共同研究にあっては、その欠を補って、いっそうの収斂性を追求したいもの、と考えている。

(2) 研究スタッフ

氏 名	所 属	研究課題の役割および相互連関
(代表) 山 川 偉 也	文 学 部	形式論理学, ギリシア哲学, ギリシア文化, 西洋思想史
(会計) 林 宏 作	文 学 部	中国文化・芸術論, 中国語, 中国論理思想史
ゴンザレス ダリオ	文 学 部	スペイン語, イタリア語, ポルトガル語, スペイン文化論
清 水 真 一	文 学 部	言語学, 英語学, 生成変形文法, モンタギュー文法
柳 父 章	文 学 部	比較文化論, 翻訳文化論, コミュニケーション論
長谷川 存 古	非常勤講師	英語学, 言語学, 日常言語の論理分析
村 田 全	文 学 部	数学史, 科学思想史

※村田全は1994年3月退職。1994年度以降も参加。

2 研 究 成 果

著書または論文その他

著 者 名	関 連 度	書名または論文名等	出版社名または書誌(巻号)名等	発行年月
山 川 偉 也	A	『古代ギリシアの思想』	講談社学術文庫	1993年5月

- 山 川 偉 也 B *The Philosophy of Socrates*, Boudouris 共著 1992年
- 山 川 偉 也 A *Pythagorean Philosophy*, Boudouris 共著 1992年
- 山 川 偉 也 A 「Heiberg 版ユークリッド『原論』第X巻最終定理(付録27)の証明構造について」『総合研究所紀要』19-1 1993年8月
- 山 川 偉 也 A 「パルメニデス断片2における「非有」の問題」『総合研究所紀要』19-1 1993年8月
- 山 川 偉 也 A 「ユークリッド『原論』第7巻定義4における“μέρη”の概念」『総合研究所紀要』19-2 1993年12月
- 山 川 偉 也 A 「西周『致知啓蒙』に見る西洋形式論理学の本邦への導入について」『総合研究所紀要』19-3 1994年3月
- 山 川 偉 也 B 「ゼウスの正義——綱と秤——」『国際文化論集』7 1993年2月
- 山 川 偉 也 A 「エレアのゼノン——その《多》の否定の論証——(Iの1)」『国際文化論集』9 1994年2月
- 林 宏 作 B 「途に窮し慟哭する心情——阮籍の場合——」『人間科学』4 1993年3月
- 林 宏 作 B 「玄齋樂府」『人間科学』7 1994年9月
- 林 宏 作 B 「魏晉之際的阮籍」『国際文化論集』7 1993年2月
- 林 宏 作 B 「阮籍仕宦考」『国際文化論集』11 1995年1月
- ゴンザレス ダリオ A “Orígenes y Evolución de la Lengua Española”『総合研究所紀要』19-3 1994年3月
- 清 水 真 一 A 「否定と構成性」『英米評論』8 1993年12月
- 清 水 真 一 A 「量化と論理形式」『人間科学』8 1995年1月
- 柳 父 章 A 「日韓・言語表現と人間関係の対応の比較」『総合研究所紀要』18-3 1993年3月
- 柳 父 章 A 『日本型モデルとは何か』共著 濱口恵俊編 新曜社 1993年4月
- 柳 父 章 A 「言葉の形」『形の文化誌』第1号(アジアの形を読む) 1993年12月
- 柳 父 章 A “Katashi vs Form” (Katashi v Symmetry Symposium Extended Abstract) 1994年8月
- 長谷川 存 古 A 「進行形と動詞のアスペクト(2)」『TMA論集』No. 4 1991年
- 長谷川 存 古 A 「心理動詞の進行形」『成田盛光教授還暦祝賀論文集』英宝社 1992年
- 長谷川 存 古 A 「談話における発話内行為」関西大学英文学会『英文学論集』No. 33 1993年
- 村 田 全 A “Quelques Remarques sur le Livre X des “Eléments” d’Euclide, *Historia Scientiarum*, voi. 2-1 1992年
- 村 田 全 A “Japanese Indigenous Mathematics, *Encyclopedia of the History of the Mathematical Sciences*, Routledge (Grattan-Guinness ed.)
- 村 田 全 A 「エレアのゼノン, その光と影——西欧思想史上のゼノン——」平井啓之, 山川偉也との共著『人間科学』3 1992年3月
- 村 田 全 A “Pour une meilleure compréhension du Livre X des “Eléments” d’Euclides——Un essai de reconstruction du Processus de formation”, *Historia Scientiarum* 1993年
- 村 田 全 A 「『原論』X巻の形成史研究と仮説的方法」科学基礎論学会『科学基礎

論研究』 1993年

学会報告等

発表者名	関連度	報告論題名→学会または団体名→発表年月
山 川 偉 也	B	<i>Περὶ Δικαιοσύνης</i> , The Fifth Seminar for Greek Philosophy, Aristotelian Political Philosophy, in Plato's Academy, Athens, Greece 1994年5月
山 川 偉 也	B	Aristotle on Justice, The Sixth International Conference on Greek Philosophy, International Association for Greek Philosophy, Ierissos, Greece 1994年8月
ゴンザレス ダリオ	B	"Influencia de Israel en America Precolombina" San Agustin University 1993年8月
柳 父 章	A	「言葉と形」 形の文化会 1993年5月

3 活 動 日 誌

1992年度

1992年

- ・ 7月20日 研究会「パルメニデス・第三人間について」 報告者：山川偉也 参加者：ゴンザレス ダリオ, 清水真一, 村田全, 柳父章, 林宏作, 長谷川存古
場所：関西大学図書館
- ・ 9月28日 研究会「日韓・言語表現と人間関係の対応の比較」 報告者：柳父章 参加者：ゴンザレス ダリオ, 清水真一, 村田全, 山川偉也, 林宏作, 長谷川存古, 他に林陸雄 場所 本学, 総合研究所
- ・ 10月5日 研究会「進行形・発話行為・談話分析」 報告者：長谷川存古 参加者：ゴンザレス ダリオ, 清水真一, 村田全, 山川偉也, 林宏作 場所：本学, 総合研究所
- ・ 10月26日 研究会「アメリカにおけるスペイン語の誕生」 報告者：ゴンザレス ダリオ 参加者：清水真一, 村田全, 柳父章, 山川偉也, 林宏作, 長谷川存古, 他に林陸雄 場所：本学, 総合研究所
- ・ 11月16日 研究会「現代中国語における外来語の概念」 報告者：林宏作 参加者：清水真一, 村田全, 柳父章, 長谷川存古, 他に林陸雄, 吉田彌壽夫, 芦田茂幸（本学非常勤講師） 場所：本学, 総合研究所
- ・ 11月25日～26日 研究集会参加「かたちの知・知のかたち」（柳父章） 場所：茨城県つくば市, 筑波大学
- ・ 12月7日 研究会「Negative Concord in English」 報告者：清水真一 参加者：ゴンザレス ダリオ, 村田全, 柳父章, 山川偉也, 林宏作, 長谷川存古
場所：本学, 総合研究所
- ・ 12月14日 ①研究会「芭蕉の俳諧連句をめぐって——比較文化史的考察その他——」 報告者：村田全 ②会合「総括ディスカッション：本年度の活動をふりかえって」 参加者：清水真一, 柳父章, 山川偉也, 林宏作, 長谷川存古, 他に国松夏紀, 中田信正, 林陸雄, 吉田彌壽夫, 中元藤茂（本学非常勤講師） 場所：①本学, 総合研究所 ②堺市大美野, 美乃屋

1993年

- ・ 3月17日～20日 見学「豆州下田郷土資料館・了仙寺宝物館」 参加者：ゴンザレス ダリオ，清水真一，村田全，柳父章，山川偉也，林宏作，他に竹中暉雄，林陸雄
合宿研究会①「ゼノンの第二逆理と幼年唱歌「うさぎとかめ」」，②「パルメニデスの第八断片における非有の問題」報告者：山川偉也 ③「文化の伝承と創造の問題——数学史を中心に——」 報告者：村田全 ④「外来語翻訳事情について」 報告者：柳父章 場所：静岡県下田市，下田屋旅館 田村丸

1993年度

1993年

- ・ 5月10日 会合「今年度の研究活動方針について」 参加者：ゴンザレス ダリオ，清水真一，村田全，柳父章，山川偉也，林宏作，長谷川存古 場所：本学，総合研究所
- ・ 5月17日 研究会「建部賢弘『綴術算経』の再吟味」 報告者：村田全 参加者：ゴンザレス ダリオ，清水真一，柳父章，山川偉也，林宏作，長谷川存古，他に中元藤茂（本学非常勤講師） 場所：本学，総合研究所
- ・ 5月24日 研究会「和算書における推論の種々相」 報告者：村田全 参加者：ゴンザレス ダリオ，清水真一，山川偉也，林宏作，長谷川存古，他に井上義祐，岡田章子，武田久義，中田信正，中元藤茂（本学非常勤講師） 場所：本学，総合研究所
- ・ 6月14日 研究会「ゼノンの『多』の否定の論証について」 報告者：山川偉也 参加者：ゴンザレス ダリオ，清水真一，村田全，林宏作，長谷川存古，他に国松夏紀，林陸雄，村田晴夫，中元藤茂（本学非常勤講師），学外より上垣涉（三重大学教員） 場所：本学，総合研究所
- ・ 6月28日 研究会「ゼノンの『多』の否定の論証について（Ⅱ）」 報告者：山川偉也 参加者：ゴンザレス ダリオ，村田全，林宏作，長谷川存古，他に国松夏紀，竹中暉雄，中元藤茂（本学非常勤講師），学外より上垣涉（三重大学教員） 場所：本学，総合研究所
- ・ 7月5日 研究会①「山川氏の発表についての質疑」 ②「研究旅行の打合せ」 参加者：ゴンザレス ダリオ，清水真一，村田全，山川偉也，林宏作，他に竹中暉雄，中元藤茂（本学非常勤講師） 場所：本学，408（林宏作）研究室
- ・ 7月17日～19日 合宿研究会①「『大無量寿経』と親鸞の『自然法爾』」 報告者：林宏作 ②「生体内言語機能について」 報告者：中元藤茂（本学非常勤講師） ③「ゼノンの運動否定論について」 報告者：村田全 ④「ユークリッド『原論』第七巻定義にみられる“μέρη”の概念」 報告者：山川偉也 ⑤「体罰法禁下における体罰正当化の論理」 報告者：竹中暉雄 参加者：ゴンザレス ダリオ，清水真一，村田全，山川偉也，林宏作，他に竹中暉雄，村田晴夫，中元藤茂（本学非常勤講師） 場所：長野県上田市，ホテル上田温泉
- ・ 9月20日 会合「後期活動の日程について」 参加者：ゴンザレス ダリオ，清水真一，林宏作，他に竹中暉雄，林陸雄，中元藤茂（本学非常勤講師） 場所：

- 本学408（林宏作）研究室
- ・ 9月27日 会合「研究発表の日程とテーマについて」 参加者：ゴンザレス ダリオ，清水真一，村田全，林宏作，長谷川存古，他に竹中暉雄，林陸雄 場所：本学，総合研究所
 - ・ 10月18日 研究会「遂行文について」 報告者：長谷川存古 参加者：ゴンザレス ダリオ，清水真一，村田全，林宏作，他に竹中暉雄，萩原直之 場所：本学，総合研究所
 - ・ 11月8日 研究会「古代アンデスの文字表現」 報告者：ゴンザレス ダリオ 参加者：清水真一，村田全，林宏作，長谷川存古，他に赤瀬雅子，竹中暉雄，林陸雄，松永俊男，中元藤茂（本学非常勤講師） 場所：本学，聖アンデレ館小会議室
 - ・ 11月29日 研究会「照応形（anaphor）と代名詞（pronoun）」 報告者：清水真一 参加者：ゴンザレス ダリオ，村田全，林宏作，長谷川存古，他に林陸雄 場所：本学，聖アンデレ館小会議室
 - ・ 12月13日 研究会「和算家の思想性」 報告者：村田全 参加者：ゴンザレス ダリオ，清水真一，林宏作，長谷川存古，他に竹中暉雄，中元藤茂（本学非常勤講師） 場所：本学，聖アンデレ館小会議室

1994年

- ・ 1月12日 会合「会計報告と予算配分」 参加者：ゴンザレス ダリオ，清水真一，林宏作，長谷川存古，他に竹中暉雄，林陸雄，中元藤茂（本学非常勤講師） 場所：大阪難波，鷹ヶ巣
- ・ 3月17日 資料収集（清水真一） 場所：東京神田，三省堂書店

1994年度

1994年

- ・ 5月30日 研究会「翻訳可能性のスペクトル——吉川・大山の「洛中書問」をめぐって」 報告者：村田全 参加者：ゴンザレス ダリオ，清水真一，林宏作，長谷川存古，他に鬼塚光政，竹中暉雄，中田信正，林陸雄，村田晴夫，中元藤茂（本学非常勤講師） 場所：本学，総合研究所
- ・ 6月13日 会合「1993年度の報告書及び1994年度の研究発表について」 参加者：ゴンザレス ダリオ，清水真一，林宏作，長谷川存古，他に竹中暉雄，中元藤茂（本学非常勤講師） 場所：本学，総合研究所
- ・ 7月17日 研究会「脳死と論理」 報告者：中元藤茂（本学非常勤講師） 参加者：ゴンザレス ダリオ，林宏作，長谷川存古，他に竹中暉雄，林陸雄 場所：本学，総合研究所
- ・ 9月12日 研究会「ギリシア哲学——その過去・現在・未来」 講師：コンスタンティノス・ブドゥリス氏（アテネ大学哲学部教授） 参加者：ゴンザレス ダリオ，清水真一，山川偉也，林宏作，長谷川存古，他に滝澤武人，谷本泰三，萩原直之，松永俊男，村田晴夫，中元藤茂（本学非常勤講師），大学院生3名 場所：本学，総合研究所
- ・ 9月26日 会合「図書購入及び後期研究会の日程」 参加者：ゴンザレス ダリオ，林宏作，長谷川存古，他に林陸雄，中元藤茂（本学非常勤講師） 場所：本学，408（林宏作）研究室

- ・ 10月3日 研究会「ギリシア——哲学の旅」 報告者：山川偉也 参加者：ゴンザレス
ダリオ，林宏作，長谷川存古，他に竹中暉雄 場所：本学，408（林宏
作）研究室
- ・ 11月21日 研究会「エレア派の哲学」 報告者：山川偉也 参加者：ゴンザレス ダリオ，
清水真一，林宏作，他に竹中暉雄，林陸雄，中元藤茂（本学非常勤講師）
場所：堺市，富久福寿司
- ・ 11月28日 研究会「パルメニデスとベルクソン」 報告者：山川偉也 参加者：ゴンザレ
ス ダリオ，清水真一，林宏作，他に赤瀬雅子，林陸雄，村田晴夫，中
元藤茂（本学非常勤講師） 場所：本学，総合研究所
- ・ 12月19日 会合「論文集の編集について」 参加者：ゴンザレス ダリオ，山川偉也，林
宏作，長谷川存古，他に竹中暉雄，林陸雄，松永俊男，中元藤茂（本学
非常勤講師） 場所：堺市，富久福寿司

1995年

- ・ 2月27日 会合「研究会の発表者と日程について」 参加者：ゴンザレス ダリオ，山川
偉也，林宏作，長谷川存古，他に竹中暉雄，林陸雄，中元藤茂（本学非
常勤講師） 場所：本学，408（林宏作）研究室
- ・ 3月27日～30日 ①調査・②合宿研究会「詩の言葉と科学の言葉——賢治の場合——をテーマ
に」 ①「宮澤賢治関係の調査」 ②「賢治のモナド共同体幻想」「賢
治とゼノン」「ことばと論理の総括」 報告者：山川偉也 参加者：ゴ
ンザレス ダリオ，清水真一，山川偉也，林宏作，他に竹中暉雄，村田
晴夫 場所：岩手県花巻市，遠野地方

1994年

- ・ 4月1日～
1995年3月31日 調査・資料収集「海外研修滞在期間を利用して言語を中心とした調査および資
料収集」（山川偉也） 場所：ギリシアほか欧州各地

研究課題(テーマ) **東アジア諸国における米の生産・流通
・貿易・政策に関する実証的研究**

研究期間 1992年4月～1995年3月(3カ年)

1 総 括

(1) 研究目的およびプログラムの到達度評価

国際的な農産物貿易の自由化というメカトレンドの中にあつて、米の輸入問題がウルグアイ・ラウンドの進展と併行して、ますます議論を巻き起していたこの時期にあつて、代表者である岸本は、これまで日米間のコメの通商問題を中心として実証研究を展開してきた実績を踏まえてこのようなプロジェクトを組織したのである。本プロジェクトにおける研究の目的は、アメリカからもたらされた東アジア諸国への米の市場開放要求という外圧によって、東アジア諸国が米経済ばかりでなく一国経済全体をも構造変動をおこしているという認識の下で、その米経済の構造変動の方向性を模索し、そのゆくえを展望することにおいていたのである。

このような中で、実際の米問題にあつては1993年12月に部分開放の決定がなされて益々われわれの研究成果の重要度が増しつつあり、それを真摯に受けとめて、現在、われわれは『東アジアの米経済の構造変動』という著書を編集・出版するべく努めているところである。

(2) 研究スタッフ

氏 名	所 属	研究課題の役割および相互連関
(代表) 岸 本 裕 一	経 営 学 部	研究総括, 各国の米流通システムの比較研究
(会計) 巖 善 平	経 済 学 部	中国のコメ政策
望 月 和 彦	経 済 学 部	各国の米生産に関する経済開発論的研究
鈴 木 博 信	社 会 学 部	各国の米政策の政治学的研究
清 水 由 文	社 会 学 部	米の社会学的研究

※清水由文, 鈴木博信は, 1992年度のみ参加

巖善平は, 1993年度より参加

2 研 究 成 果

著書または論文その他

著 者 名	関連度	書名または論文名等→出版社名または書誌(巻号)名等→発行年月
岸 本 裕 一	A	「アメリカ・アーカンソー州におけるコメ生産について」『商品先物市場』18-9 1994年9月
岸 本 裕 一	A	「シカゴ商品取引所のコメの先物取引」『商品先物市場』18-11 1994年11月
巖 善 平	A	「中国における食糧の生産・流通価格」『経済経営論集』35-4 1994年3月

敵	善	平	A	「中国食糧経済の構造転換と長期展望」『アジア経済』37-2 1996年2月
敵	善	平	B	「ワールドウォッチ研究所のレポートをどう読む——中国食糧需給見通しの今後——」『農業と経済』61-1 1995年10月
敵	善	平	B	「緊急座談会：激動アジア・食料は足りるか」『日本農業新聞』連載 1995年7月4日～8日
敵	善	平	B	「アジア・中国の食料事情と中国政府の対応」『日本の科学者』31-4 1996年4月
望	月	和彦	A	「日本のコメ生産構造とコメの市場開放問題に関する一考察」『大阪大学経済学』Vol. 42 No. 3. 4 1993年3月
望	月	和彦	A	「あまりにも日本的な『コメ』決定」『経営実務』1994年2月
望	月	和彦	B	「戦略的貿易政策」『経済経営論集』34-1 1992年5月

学会報告等

発表者名	関連度	報告論題名→学会または団体名→発表年月
岸本裕一	A	「ミニマム・アクセス実現に向けた米流通政策の再構築のビジョン」 日本商業学会 1992年5月
岸本裕一	A	「わが国の米市場開放問題に関する国際公共選択論的研究」 国際公共 経済学会 1992年12月
岸本裕一	A	「ウルグアイラウンド以降の日本の米穀政策の発展方向」 大韓民国慶 尚大学校招待講演 1994年4月
岸本裕一	A	「米の先物市場再創設に関する流通論的研究」 日本商業学会 1994年 12月
敵善平	A	「中国における食糧生産変動の要因分析と需給の長期展望」 地域農村 経済学会 1995年9月
敵善平	A	「中国食糧経済の構造変化と展望」 日本現代中国学会 1995年10月
敵善平	B	「アジアにおける食料事情の現在と将来」 食料法研究会 1995年10月

3 活動日誌

1992年度

1992年

- ・ 9月2日 資料収集（望月和彦） 場所：東京，国立国会図書館
- ・ 10月19日～23日 調査「シンガポールにおける米の輸入流通政策に関する調査」（岸本裕一）
場所：シンガポール
- ・ 10月15日～19日 資料収集（岸本裕一） 場所：東京，農林水産省ほか

1993年

- ・ 1月14日～15日 資料収集（望月和彦） 場所：東京，国立国会図書館ほか
- ・ 3月18日～20日 調査「最近の米の流通政策の展開に関するヒアリング」（岸本裕一） 場所：
東京，全農全中ほか
- ・ 3月25日～26日 資料収集（清水由文） 場所：東京，JETRO 国立国会図書館 厚生省人口問
題研究所

1993年度

1993年

- ・ 5月17日 研究会「中国の米政策の現状について」 報告者：厳善平 参加者：岸本裕一，望月和彦 場所：大阪梅田，関西文化サロン
- ・ 10月1日～2日 研究会参加「中国経済の市場化と流通システム」(厳善平) 場所：東京，霞山会館

1994年

- ・ 1月17日～20日 調査「北陸2県における米部分開放決定に対する経済連の対応についてのヒアリング」(岸本裕一) 場所：富山県，福井県
- ・ 1月31日 研究会参加「中国における食糧流通の自由化」〔報告者：池上彰英氏，中国農村研究会主催〕(厳善平) 場所：東京，東京大学経済学部
- ・ 2月7日～9日 調査「ミニマム・アクセス受諾後の米流通の対応」(岸本裕一) 場所：東京，食糧庁，農水省ほか
- ・ 3月7日～9日 調査「米の輸入に伴う各方面の対応をヒアリング」(岸本裕一) 場所：東京，食糧庁，USライス・インフォメーション・センター

1994年度

1994年

- ・ 7月15日 研究会「来年度新規プロジェクトの申請課題について」 参加者：岸本裕一，厳善平，望月和彦 場所：本学，計算機センター応接室
- ・ 8月8日 調査「中国の食糧経済特に食糧流通体制の調査」(厳善平) 場所：中国，南部稲作地帯
- ・ 9月8日～13日 調査「シンガポールにおける米の流通管理システム」(岸本裕一) 場所：シンガポール，米管理局ほか
- ・ 10月5日～7日 調査「米の主要産地の米流通への対応に関するヒアリング」(岸本裕一) 場所：新潟県・山形県，両県経済連

1995年

- ・ 2月26日～27日 調査「最近の食糧に関するヒアリング」(岸本裕一) 場所：東京，食糧庁需給課ほか

研究課題(テーマ) 現代日本経済の研究(Ⅲ) ——高度成長の多面的研究——

研究期間

1992年4月～1995年3月(3カ年)

1 総 括

(1) 研究目的およびプログラムの到達度評価

本プロジェクトは、現代日本経済の特殊性を把握すべく、その基軸的諸関係が形成確立される画期としての高度成長を多面的に研究することを目的としている。一面で戦前・戦時下経済に固有の諸関係を継承し、他面で戦後に特有の新たな諸関係を確立し、しかもなお後者の形態の中に前者を貫徹させるという意味での戦後的「特殊性」こそ、戦後＝現代日本経済の特殊性を規定しており、その形成確立の画期となるのが高度成長であるという問題意識から、高度成長の諸側面を実証的・理論的に再検討しようというものである。

プロジェクトの活動は研究プログラムにもとづき主に研究会を中心に活発に行われた。また、各メンバーの研究成果の一部も数多く公表された。その意味で、このプロジェクトは課題をきわめて勤勉かつ誠実に遂行してきたと評価できる。もっとも、活動日誌にも示されているように、本プロジェクトの第1年目(1992年度)は、事実上前プロジェクトの出版事業に費やされたために、本プロジェクト固有の活動は実際には2年間に限定され、課題達成が遅れざるを得なかった。そこで、新規プロジェクト(95共101)のもとに本プロジェクトを事実上もう一年延長することとした。

最後に、本プロジェクトの期間中に急逝された故山下直登氏の御霊のご冥福をお祈りしたい。

(2) 研究スタッフ

氏 名	所 属	研究課題の役割および相互連関
(代表) 落 谷 硯 児	経済学部	高度成長の国際金融的諸側面の研究
(会計) 鈴 木 健	経済学部	高度成長期の企業集団——銀行融資と株式所有——
西 川 憲 二	経済学部	高度成長と技術革新
木 村 二 郎	経済学部	高度成長の金融メカニズム
黒 田 兼 一	経済学部	高度成長期の労使関係
芝 村 篤 樹	経済学部	高度成長と都市政策
滝 田 和 夫	経済学部	高度成長の蓄積メカニズム
谷 口 照 三	経営学部	高度成長と企業経営思想
前 田 治 郎	経済学部	高度成長期の欧州(仏)経済
山 下 直 登	経済学部	高度成長と地域経済の変貌

※山下直登氏は1994年5月逝去

2 研究 成 果

著書または論文その他

著 者 名	関連度	書名または論文名等→出版社名または書誌(巻号)名等→発行年月
落 谷 硯 児	A	「1931年国際金融恐慌と再建金本位制」戦後日本経済研究会編『大恐慌と戦間期経済』文真堂 1993年11月
落 谷 硯 児	B	「オハイオ州銀行危機の教訓」『証券投資信託月報』382号 1992年 7 月
落 谷 硯 児	B	「海外における最近の金融不祥事について」『証券経済学会年報』28号 1993年 5 月
落 谷 硯 児	B	「正木久司編著『株式会社支配論の展開（イギリス篇）』」『同志社商学』第44巻 1 号 1992年 6 月
落 谷 硯 児	B	「イギリスの貨幣金融制度」『経済学辞典』岩波書店第 3 版 1992年
鈴 木 健	A	『独占資本主義の研究』文真堂 1992年 8 月
鈴 木 健	A	『日本の企業集団—戦後日本の企業と銀行—』大月書店 1993年12月
鈴 木 健	A	『現代日本の金融』熊野剛男, 竜昇吉共著 大月書店 1992年11月
鈴 木 健	A	「戦時下「共同融資」と協調融資」戦後日本経済研究会編『大恐慌と戦間期経済』文真堂 1993年11月
鈴 木 健	A	『現代経済システムの位相と展開』鶴田満彦共著 大月書店 1994年10月
鈴 木 健	A	『現代の財政金融』龍昇吉共著 日本経済評論社 1995年 3 月
鈴 木 健	A	「銀行融資と株式所有」中央大学『商学論纂』第35巻 5・6 号 1994年 3 月
鈴 木 健	A	「メインバンクの理論的諸問題」『経済経営論集』35-3・4 1995年 3 月
西 川 憲 二	A	「アメリカ大恐慌の原因とそのメカニズム」戦後日本経済研究会編著『大恐慌と戦間期経済』文真堂 1993年11月
西 川 憲 二	A	『日本の「高度成長」と技術革新』桃山学院大学研究叢書 1996年 3 月
木 村 二 郎	A	「大不況と金融政策」戦後日本経済研究会編『大恐慌と戦間期経済』文真堂 1993年11月
木 村 二 郎	A	「金融規制と高度成長」『総合研究所紀要』21- 3 1996年 3 月
黒 田 兼 一	B	「『日本の労使関係』論の新動向」稲村・仲田編『転換期の経営学』中央経済社 1992年 5 日
黒 田 兼 一	B	「レギュラシオン学派による『日本の労使関係論』批判」『経済科学通信』第71号 1992年10月
芝 村 篤 樹	B	「地域文書館の役割」『大阪あーかいぶず』特集 3 号 1992年12月
芝 村 篤 樹	A	「専門官僚制・市民参加, そして区政」『新都市自治論』ぎょうせい 1993年 3 月
芝 村 篤 樹	B	「大阪の都市計画の指導者・関一」『日本の創造力——近代・現代を開花させた470人』NHK出版 1993年 6 月
芝 村 篤 樹	A	「昭和恐慌と大阪」戦後日本経済研究会編『大恐慌と戦間期経済』文真堂 1993年11月
芝 村 篤 樹	B	「巨大都市の形成——市区改正から都市計画へ」『都市と民衆』吉川弘文館 1993年12月

- 芝村篤樹 B 『新修大阪市史』第7巻第1章1・2節 大阪市 1994年3月
- 芝村篤樹 B 『新修大阪市史』第6巻第1章5節 大阪市 1994年12月
- 芝村篤樹 B 『まちづくり100年の記録・大阪市の区画整理』第2編1章1節, 大阪市建設局 1995年1月
- 芝村篤樹 A 「戦前国土計画の歴史的役割」『経済経営論集』36-3・4 1995年3月
- 芝村篤樹 B 「布川報告『都市<下層社会>の形成とナショナルリズム』について」『日本史研究』357号 1992年5月
- 芝村篤樹 B 「区自治の拡張と自然・歴史の保存・大都市大阪の課題」『市政研究』No. 97 1992年10月
- 滝田和夫 A 「1930年代アメリカの投資・消費行動」戦後日本経済研究会編『大恐慌と戦間期経済』文眞堂 1993年11月
- 滝田和夫 A 「固定資本の生存・除却曲線について(上)」『経済経営論集』36-3・4 1995年3月
- 滝田和夫 A 「固定資本の生存・除却曲線について(下)」『経済経営論集』37-1 1995年7月
- 前田治郎 A 「世界恐慌前後の大預金銀行」戦後日本経済研究会編『大恐慌と戦間期経済』文眞堂 1993年11月
- 前田治郎 B 「トヨタ主義と日本主義」『フォード主義対トヨタ主義——日仏自動車工業の比較——』第5章共訳 創風社 1994年9月
- 山下直登 A 「戦後改革期の加古川」1～6節『加古川市史』第6巻下 加古川市 1992年6月
- 山下直登 A 『「50年争議」とその後の日製労働運動』日立の現代史の会編『日立製作所と地域社会』1993年3月
- 山下直登 A 「昭和恐慌と都市小ブルジョワジー」戦後日本経済研究会編『大恐慌と戦間期経済』文眞堂 1993年11月
- 山下直登 B 「15年戦争下の神戸」1～5節『新修神戸市史』神戸市 1994年1月
- 山下直登 B 「加古川市域の木綿生産(3)」『広報かこがわ』No.626 加古川市 1992年9月
- 山下直登 B 「御津町の近代史資料」『広報みつ』No.506 御津町 1993年10月
- 山下直登 B 「加古川市域の木綿生産(4)」『広報かこがわ』No.641 加古川市 1993年12月
- 山下直登 B 『資本と地域社会——戦時下日立製作所の農村進出』校倉書房 1995年11月

学会報告等

- | 発表者名 | 関連度 | 報告論題名→学会または団体名→発表年月 |
|------|-----|---|
| 落谷硯児 | B | 「海外における最近の金融不祥事について」証券経済学会関西部会 第66回 1992年4月 |
| 落谷硯児 | B | 「国際比較による貯蓄金融機関・イギリス」郵政研究所研究会 1993年3月 |
| 落谷硯児 | B | 「イギリスの企業年金と証券投資—1980年代におけるマーチャントバンカーの関与を中心に」日本経営財務研究学会西日本部会 1994年7月 |
| 落谷硯児 | B | 「金融制度改革と中小企業金融」金融学会 1994年11月 |

鈴木 健	A	「メインバンクと企業集団」	証券経済学会関西部会	1994年 9月
鈴木 健	A	「メインバンクと企業集団」	経済理論学会全国大会	1994年10月
黒田 兼一	B	「『日本の労使関係』とポスト・フォーディズム論」	労務理論学会, 第21回大会 (名城大)	1992年 5月
芝村 篤樹	B	「戦前国土計画の歴史的役割」	近代都市史研究会関東部会	1995年 3月

3 活動日誌

1992年度

1992年

- ・ 5月11日 研究会「戦間期の金融政策」報告者：木村二郎 参加者：黒田兼一，鈴木健，滝田和夫，西川憲二，落谷硯児，前田治郎，山下直登 場所：本学，総合研究所
- ・ 7月10日 会合「夏期休暇中の研究計画確認と打ち合せほか」参加者：木村二郎，黒田兼一，芝村篤樹，鈴木健，滝田和夫，西川憲二，落谷硯児，前田治郎，山下直登 場所：堺市北野田，味里
- ・ 9月17日 研究会「出版に向けた締めくくりの研究会（原稿作成途上の報告）」報告者：滝田和夫，前田治郎，落谷硯児 参加者：木村二郎，芝村篤樹，鈴木健，谷口照三，西川憲二，山下直登 場所：本学，総合研究所
- ・ 9月18日 研究会「出版に向けた締めくくりの研究会（2日目）」報告者：鈴木健，山下直登，芝村篤樹 参加者：木村二郎，滝田和夫，谷口照三，西川憲二，落谷硯児，前田治郎 場所：本学，総合研究所
- ・ 10月16日 出版打合せ「研究成果『大恐慌と戦間期経済（仮称）』」（鈴木健）場所：東京新宿，文真堂
- ・ 12月18日 会合「今年度研究テーマの研究計画について打合せ」参加者：木村二郎，鈴木健，滝田和夫，谷口照三，西川憲二，落谷硯児，前田治郎，山下直登 場所：堺市北野田，味里

1993年

- ・ 3月18日～19日 ①調査「新産都市計画その後の実態調査：富山・高岡地域をみる」 ②研究会「メインバンクと協調的融資」報告者：西川憲二 参加者：木村二郎，芝村篤樹，鈴木健，滝田和夫，落谷硯児，前田治郎，山下直登 場所：富山県富山市，新産都市関連施設ほか 海魚（カイト）

1993年度

1993年

- ・ 7月19日 研究会「27年銀行法と金融システムの安定性」報告者：木村二郎 参加者：芝村篤樹，鈴木健，滝田和夫，西川憲二，落谷硯児，前田治郎，山下直登 場所：本学，総合研究所
- ・ 10月4日 研究会「英国における日本の労使関係の現実と研究の現状」報告者：黒田兼一 参加者：芝村篤樹，鈴木健，滝田和夫，谷口照三，西川憲二，落谷硯児，前田治郎，山下直登 場所：本学，事務棟3階会議室
- ・ 11月8日 研究会「銀行融資と株式所有——企業集団研究の新しい動向——」報告者：鈴木健 参加者：芝村篤樹，滝田和夫，西川憲二，落谷硯児，前田治郎，

山下直登 場所：本学，総合研究所

- ・ 11月11日～13日 資料収集「高度成長期の企業集団に関する資料」（鈴木健） 場所：東京，国立国会図書館 機械振興協会図書館 中央大学企業研究所
- ・ 12月13日 研究会「高度成長と都市政策」 報告者：芝村篤樹 参加者：黒田兼一，鈴木健，滝田和夫，西川憲二，落谷硯児，前田治郎，山下直登 場所：本学，総合研究所

1994年

- ・ 1月17日 研究会「所得倍増計画」 報告者：西川憲二 参加者：黒田兼一，芝村篤樹，鈴木健，滝田和夫，山下直登 場所：本学，総合研究所
- ・ 3月18日～19日 ①調査「新産都市のその後：シリーズ2——大分コンビナートの見学」②会合「来年度の研究計画と出版計画について打合せ」 参加者：黒田兼一，芝村篤樹，鈴木健，滝田和夫，谷口照三，西川憲二，落谷硯児，前田治郎，山下直登 場所：大分市，昭和電工 別府市

1994年度

1994年

- ・ 5月26日 研究会「レギュラシオン学派による日本の労使関係論批判」 報告者：黒田兼一 参加者・滝田和夫，谷口照三，西川憲二，落谷硯児，前田治郎 場所：本学，総合研究所
- ・ 6月29日 研究会「メインバンクの固定性＝安定性について」 報告者：鈴木健 参加者：黒田兼一，滝田和夫，西川憲二，落谷硯児，前田治郎 場所：本学，総合研究所
- ・ 7月26日 研究会「責任概念について」 報告者：谷口照三 参加者：黒田兼一，滝田和夫，西川憲二，落谷硯児，前田治郎 場所：本学，総合研究所
- ・ 10月4日 研究会「ナロウバンキング論とアメリカ金融制度の不安定性」 報告者：木村二郎 参加者：黒田兼一，滝田和夫，谷口照三，西川憲二，落谷硯児 場所：本学，総合研究所
- ・ 11月17日 研究会「固定資本の生存・除却曲線について」 報告者：滝田和夫 参加者：木村二郎，西川憲二，落谷硯児，前田治郎，他に濱田博男 場所：本学，総合研究所
- ・ 12月20日 研究会「戦前における国土計画の歴史的役割」 報告者：芝村篤樹 参加者：木村二郎，滝田和夫，西川憲二，落谷硯児，前田治郎 他に濱田博男 場所：本学，総合研究所

1995年

- ・ 1月31日 研究会「レギュラシオン学派の日本資本主義論」 報告者：前田治郎 参加者：木村二郎，黒田兼一，鈴木健，滝田和夫，西川憲二，他に濱田博男 場所：本学，総合研究所
- ・ 3月2日～3日 調査「高度成長期の企業集団関連図書・資料のコピー」（鈴木健） 場所：東京，機械振興協会図書館
- ・ 3月14日～15日 研究会参加「メインバンクに関する報告：中央大学企業プロジェクト合宿研究会」（鈴木健） 場所：東京，中央大学企業研究所
- ・ 3月22日～23日 合宿研究会①「日本の高度成長」 報告者：西川憲二 ②「共同研究成果の出版打合せ」 参加者：木村二郎，黒田兼一，芝村篤樹，鈴木健，滝田和

夫，西川憲二，落谷硯児，前田治郎，他に濱田博男 場所：和歌山県白
浜町，チサンホテル白浜

「『共生』社会—文化的多元主義に関する学際的研究—」

1 総 括

(1) 研究目的およびプログラムの到達度評価

この「共生」プロジェクトでは、当初の目標である「共生社会」に関する同書出版を念頭に、メンバーによる研究報告、関連研究者の招請による研究会など、比較的によくやってきたと思われる。個別報告書の未提出者も、新しい年度に入って意欲的に研究している模様なので、論稿の提出も近い将来、実現すると思われる。95年度末には、96年度に全国の国公立大学の外国人教員に関する実態調査のための下準備、項目の選定と協議を徐、朴、木下の3名が行なった。この件については次の3年後の成果として報告できることになった。

各プロジェクト研究会の共通課題として、大学の立地などの関係と、プロジェクト共同研究の意義の認識不足から、全般的に出席者が少い傾向にあると思われる。ネジをしめ直さねばならないと考える。

(2) 研究スタッフ

氏 名	所 属	研究課題の役割および相互連関
(代表) 徐 龍 達	経営学部	「共生」社会実現のための諸前提
(会計) 蔵 田 雅 彦	文学部	アジアの複合民族国家と多元主義
木 下 栄 二	社会学部	受け入れ側の受容と拒絶
金 学 鉉	文学部	日本と朝鮮の文化比較
高 成 厦	文学部	スポーツ文化の比較研究
友 沢 昭 江	文学部	アメリカの言語政策
橋 内 武	文学部	マイノリティに対する言語政策
福 田 菊	社会学部	国連とマイノリティの人権
朴 大 栄	経営学部	大学の国際化と外国人教員の採用問題
柳 父 章	文学部	ボーダレスとナショナリズム
山 本 雅 代	文学部	日本の中の潜在バイリンガル
佐々木 信 彰	非常勤講師	中華人民共和国の少数民族

※金学鉉は1992年度、1993年度参加

山本雅代は1994年度から参加

2 研 究 成 果

著書または論文その他

著 者 名 関連度 書名または論文名等→出版社名または書誌(巻号)名等→発行年月

- 徐 龍 達 A 「定住外国人の国公立大学教員任用の推進」「定住外国人の地方参政権運動の展開」 飯沼二郎ほか共著『足もとの国際化』 海風社 1993年6月
- 徐 龍 達 A 「『外国人問題』と大学」 巨大情報システムを考える会編『不思議の国の「大学改革」——変貌する大学①』 社会評論社 1994年6月
- 徐 龍 達 A 「アジア市民への道——『国際国家・日本』への提言」「国公立大学外国人教員任用運動の現状と課題——『国籍のカベ』と『心のカベ』の撤廃をめざして」 徐龍達先生還暦記念委員会編『アジア市民と韓朝鮮人』 日本評論社 1993年7月
- 徐 龍 達 A 「21世紀の外国人問題」 月刊『地方自治職員研修』 編集部編『地方自治21世紀への提言』 公務職員研修協会 1994年10月
- 徐 龍 達 A 「国際化か国粋化か——ふたたび日本の友人に訴える——(序文)」「共生社会のための地方参政権」「岸和田市議会の地方参政権決議と声明文ほか7点(資料編)」 徐龍達編著『共生社会への地方参政権』 日本評論社 1995年3月
- 徐 龍 達 A 「開かれた国際社会をめざして」『同和教育石川』No. 7 石川県同教会報 1993年12月
- 徐 龍 達 A 「アジア市民への道——定住外国人の地方参政権を考える」 大阪府私立学校同和教育研究会編『人権推進の教育を求めて』 1994年3月
- 徐 龍 達 A 『定住外国人問題と地方参政権』(小冊子) 大阪市浪速区役所 1994年8月
- 徐 龍 達 A 「日本の国際化を願う」『卒業35周年記念文集』大阪市立大学商学部同窓会 1992年5月
- 徐 龍 達 A 「公務就任権と地方自治体——京阪神にみる定住外国人の任用動向——」『季刊青丘』第12号 青丘文化社 1992年5月
- 徐 龍 達 A 「定住外国人の地方参政権」『都市問題』83—6 東京市政調査会 1992年6月
- 徐 龍 達 A 「外国人問題を読む」『地方自治職員研修』25—8 公務職員研修協会 1992年8月
- 徐 龍 達 A 「内なる国際化としての在日韓朝鮮人問題——アジア市民は可能か——」『世界思想』18—10 Voc 出版
- 徐 龍 達 A 「大学国際化の道標」『追手門学院大学藍風』第9号 追手門学院大学 1992年11月
- 徐 龍 達 A 「法治主義を崩す妖怪“当然の法理”」『定住外国人は公務員になれるか』(小冊子) 国際在日韓国・朝鮮人研究会 1992年11月
- 徐 龍 達 A 「大学のなかの国際化に関する諸問題」『職員研修紀要』第5号 追手門学院大学 1993年3月
- 徐 龍 達 A 「在日韓国商工人の役割」『創立40周年記念経済経営シンポジウム』(小冊子) 大阪韓国商工会議所 1993年4月
- 徐 龍 達 A 「『国民』概念を拡大せよ——地方参政権訴訟の判決によせて——」『KOREA TODAY』18—8 アジア・ニュース・センター 1993年8月
- 徐 龍 達 A 「21世紀に生きるアジア市民」『法律時報』65—9 日本評論社 1993

- 年 8 月
- 徐 龍 達 A 「定住外国人に地方参政権を!! (巻頭言)」『地方自治職員研修』26—11 公務職員研修協会 1993年11月
- 徐 龍 達 A 「地方参政権獲得運動の活性化」『“在日”文化の創造へ』(小冊子) 国際在日韓国・朝鮮人研究会 1993年11月
- 徐 龍 達 A 「地方参政権運動の活性化」『KOREA TODAY』19—1 アジア・ニュース・センター 1994年 1 月
- 徐 龍 達 B 「日本の喜劇と地方参政権」『大阪府医師会報』第270号 大阪府医師会 1994年 1 月
- 徐 龍 達 A 「21世紀の定住外国人」『コリア就職情報』22号 コリア・ファミリー・サークル 1994年 3 月
- 徐 龍 達 A 「国際化と外国人の参政権」『AERA』第309号 朝日新聞社 1994年 3 月 7 日
- 徐 龍 達 A 「地方参政権は住民の権利」『よろん』 毎日新聞社西部本社 1994年 6 月
- 徐 龍 達 B 「在日韓国商工会議所の活性化(論壇)」『架け橋』Vol. 5 在日韓国商工会議所 1994年10月
- 徐 龍 達 A 「住民の権利としての地方参政権」『共生社会のための地方参政権』(小冊子) 国際在日韓国・朝鮮人研究会 1994年10月
- 徐 龍 達 A 「現代に生きるキーワード——わたしの造語などをふりかえる——」『共生社会のための地方参政権』(小冊子) 国際在日韓国・朝鮮人研究会 1994年10月
- 徐 龍 達 A 「地方参政権は住民の権利」『自治と住民』第383号 自治体問題研究会 1995年 3 月
- 徐 龍 達 B 「異質な存在を認めて共生」『縁』No. 63 関西電力株式会社 1995年 3 月・4 月
- 徐 龍 達 A 「外国人の公務員採用——地域参加, 当然の権利(「甲論乙駁」欄)」『朝日新聞』 1992年 4 月 25 日
- 徐 龍 達 A 「“開かれた福井”に——定住外国人に地方参政権を——(「学芸」欄)」『福井新聞』 1992年 5 月 13 日
- 徐 龍 達 A 「原爆慰霊碑は“韓朝鮮人”で統一を(「私見/直言」欄)」『毎日新聞』 1992年 9 月 11 日
- 徐 龍 達 A 「外国人教員 1 万人への構想(「論壇」欄)」『朝日新聞』 1992年 11 月 10 日
- 徐 龍 達 A 「“外国人教員任用法” 10 年の成果(「文化」欄)」上・中・下 『統一日報』 1993年 1 月 7 日・8 日・9 日
- 徐 龍 達 A 「地方参政権獲得に結集せよ——運動の弱体化招く韓国国政参政権取得説——」『ザ・KPI』 1994年 1 月 8 日
- 徐 龍 達 A 「外国人教員を『無任期』に——問われる国公立大の人権意識——(「文化」欄)」『毎日新聞』 1994年 1 月 21 日
- 徐 龍 達 A 「定住外国人の立場——キーワード人物事典①——」『産経新聞(夕刊 1 面)』 1994年 1 月 21 日
- 徐 龍 達 A 「『アジア市民』に脱皮を——在日外国人参政権——」『産経新聞(6

- 面)』 1994年 5月30日
- 徐 龍 達 A 「民団の地方参政権運動, どう進めるか」上・下 『新世界新聞』 1994年 6月11日・6月21日
- 徐 龍 達 A 「外国人教員の無任期採用を(「論点」欄) 『読売新聞』 1994年 8月27日
- 徐 龍 達 A 「アジア市民への道——日本人の心と国籍の“カベ”をなくせ——(「文化」欄) 『聖教新聞』 1994年 9月1日
- 徐 龍 達 B 「子々孫々が国際社会へ羽ばたくための育英事業を」 『韓奨ニュース』 第75号 在日韓国奨学会 1994年10月15日
- 徐 龍 達 B 「韓国鉄道に今なお『京城』の名残り——路線名変更で新時代築け——(「文化」欄) 『朝日新聞』 1994年11月5日
- 徐 龍 達 B 「天理大学の差別体質を問う」 『韓奨ニュース』 第77号 在日韓国奨学会 1994年12月15日
- 徐 龍 達 B 「儒道の現代化を——日本社会にもいえるひとを育成——」 『儒林会報』 第2号 (財)成均館儒道会近畿本部 1995年 1月1日
- 徐 龍 達 A 「地方参政権獲得は韓国人として生きるため」 『韓奨ニュース』 第79号 在日韓国奨学会 1994年 2月15日
- 徐 龍 達 A 「定住外国人の地方参政権獲得は『国民』概念を拡大してこそ可能」 『権益総合新聞』 第29号 在日韓国人権益総合相談所 1995年 2月1日
- 徐 龍 達 A 「参政権を持ち, 日本人と共生(「ちんぐ」欄) 『友情』 日韓人協会 1995年 3月1日
- 徐 龍 達 A 「定住外国人の地方参政権——『住民主権』に移行を——(「時論自論」欄) 『日本経済新聞』 1995年 3月13日
- 徐 龍 達 A 「参政権運動を主体性確立の好機に——リンクして本名常用・本名表礼運動を——(「文化」欄) 『統一日報』 1995年 3月23日
- 蔵 田 雅 彦 A 「アジアのマイノリティ差別と人権運動」 武者小路公秀編『共に生きるアジア』 解放出版 1992年 6月
- 蔵 田 雅 彦 B 『隣人としてのアジア』 日本基督教団出版局 1993年 8月
- 蔵 田 雅 彦 A 「アジアのエスノナショナリズムと日本のマイノリティ」 『人間科学』 4 1993年 3月
- 蔵 田 雅 彦 A 「共生社会原理の探究」 『福音と世界』 新教出版社 1995年 2月
- 友 沢 昭 江 B 『Business Japanese Text 初級コース 改訂版』(共著) スミキンインタコム 1992年12月
- 友 沢 昭 江 B 「ことばの力」 『桃山学院大学人権問題研究資料室報』 19 1992年12月
- 友 沢 昭 江 B 「第4回国際異文化コミュニケーション会議報告」 『言語』 Vol. 22 No. 7 1993年 7月
- 友 沢 昭 江 B 「学部留学生の日本語教育について」 『NEWSLETTER』 No. 11 大阪地域留学生等交流推進協議会 1994年 3月
- 友 沢 昭 江 B 「パリにおける日本語教育」 ワークキャンプ実行委員会編『アジアの人々の協働から学ぶ』 8 1994年 7月
- 友 沢 昭 江 B 「バイリンガリズムとバイリンガル教育——多民族国家アメリカの実情」 本名信行ほか編著『異文化理解とコミュニケーション2:組織と

- 人間』 三修社 1994年9月
- 橋内 武 B 『パラグラフ・ライティング入門』 研究社出版 1995年8月
- 橋内 武 B 「Learner-Centered Approach」田崎清忠編『現代英語教授法総覧』
(第22章) 大修館書店 1995年12月
- 福田 菊 A 『国連とPKO:戦わざる軍隊のすべて』第2版 東信堂 1994年11月
- 福田 菊 B “Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination against Women: A Commentary”, ed by Japanese Association of International Women’s Rights. Shogakusha, Tokyo, 1994
- 福田 菊 A “United Nations, Divided World: The UNs’ roles in international relations” second ed. ed. by Adam Roberts & Benedict Kingsbury. Clarendon, 1995. 書評『国際法外交雑誌』 第1号
1996年
- 柳父 章 A 「日韓・言語表現と人間関係の対応の比較」『総合研究所紀要』18-3
1993年3月
- 柳父 章 B 「日本語の表現構造とその世界化の可能性と限界」濱口恵俊編『日本型モデルとは何か』新曜社 1993年4月
- YANABU Akira B “The Tenno System as the Symbol of the Culture of Translation” *JAPAN REVIEW* No. 7 国際日本文化研究センター 1996
年4月
- 山本雅代 A 「母語教育:少数言語母語話者の母語保持・伸長教育」『The Language Teacher』18(4) 1994年4月
- 山本雅代 B 「バイリンガルの意味記憶貯蔵:その初期形態についての一考察」『英米評論』9 1994年12月
- 山本雅代 A “Bilingualism in international families” *Journal of Multilingual and Multicultural Development* 16-162 1995年
(上記論文は *Multilingual Japan* John Maher, Kyoko Yashiro (Eds.) *Multilingual Matters*, 1995にも収録)
- 山本雅代 A “Bilingual education”『現代英語教授法総覧』田崎清忠, 佐野富士子
(編) 大修館書店 1995年12月
- 山本雅代 A 編書『バイリンガルの世界:2つの言語と家族, 教育, 文化(仮題)』
大修館書店 1996年(予定)
- 山本雅代 B “Survey results on university students’ perception of bilinguals” *Studies on Japanese Bilingualism* Mary Noguchi (Ed), Logos International, 1997年2月(予定)
- 佐々木 信彰 A 「中国延辺紀行」『有恒会報』136号 1993年1月
- 佐々木 信彰 A 「中国の民族区域自治」『アジア諸国の地方制度』地方自治協会 1995
年3月
- 佐々木 信彰 A 「現代中国の南北問題」 1996年6月

学会報告等

- | 発表者名 | 関連度 | 報告論題名→学会または団体名→発表年月 |
|-------|-----|----------------------------------|
| 友沢 昭江 | B | 「アメリカ合衆国における言語(外国語)教育の動向」 異文化教育学 |

		会第15回大会 1994年 5月
友 沢 昭 江	B	「多文化理解のための言語政策」 第2回社会言語学研究会・シンポジウム『国際理解と社会言語学』 1995年 1月
柳 父 章	A	「日韓・言語表現と人間関係の対応の比較」『総合研究所紀要』18—3 1993年 3月
山 本 雅 代	B	「バイリンガリズムの研究方法：言語習得の視点から」 大学英語教育学会 1994年 9月
山 本 雅 代	A	「潜在バイリンガリズムから顕在バイリンガリズムへ：2言語習得を促す要因考察」 日本教育心理学会 1994年 9月
山 本 雅 代	B	「『バイリンガル』に対する大学生の意識調査」 大学英語教育学会 1995年 9月
山 本 雅 代	A	「2つの異言語環境を持つ子供たち：学校の役割」 日本幼少児健康教育学会 1996年 2月
佐々木 信 彰	A	「中国の南北問題」 慶應義塾大学地域研究センター 1993年 7月
佐々木 信 彰	A	「異文化との交流」 ISEC 1994年 2月
佐々木 信 彰	A	「国際人へのステップ」 ISEC 1994年11月
佐々木 信 彰	A	「多民族国家中国の行方」 アジア太平洋資料センター 1995年10月
佐々木 信 彰	A	「国際化の進展と定住外国人問題」 大阪市外国籍住民施策有識者会議 1995年 6月

3 活 動 日 誌

1992年度

1992年

- ・ 5月26日 研究会「本年度研究会の進め方について」 参加者：木下栄二，金学鉉，蔵田雅彦，徐龍達，友沢昭江，福田菊，柳父章 場所：本学，総合研究所
- ・ 7月7日 研究会「日本の難民の受け入れ政策について」 報告者：福田菊 参加者：木下栄二，金学鉉，蔵田雅彦，高成廈，橋内武，朴大栄，徐龍達，友沢昭江，柳父章，佐々木信彰 場所：本学，総合研究所
- ・ 9月3日～6日 調査「国公立大学外国人教員任用に関する資料収集」（徐龍達） 場所：東京，国立大学協会 文部省人事課
- ・ 9月24日 研究会「アメリカのマルチカルチャーリズムについて」 報告者：友沢昭江 参加者：木下栄二，金学鉉，蔵田雅彦，徐龍達，橋内武，福田菊，柳父章 場所：本学，総合研究所
- ・ 11月14日～16日 ①シンポジウム参加「共生社会のためのシンポジウム」②資料収集（徐龍達，朴大栄） 場所：東京千代田区神田，電通ホールほか
- ・ 11月21日～22日 調査「外国人教員任用の実態調査資料の収集」（徐龍達） 場所：東京，公立大学協会ほか
- ・ 11月21日～22日 研究会参加①「開発民主化と NGO：タイの事例」 ②「アジアからの花嫁の実態」（福田菊） 場所：川崎市産業振興会館
- ・ 12月1日 研究会「生野地区からみた共生社会への展望」 講師：李清一氏（韓国基督教會館々長） 参加者：木下栄二，蔵田雅彦，高成廈，徐龍達，福田菊，

柳父章 場所：本学，A館小会議室

1993年

- ・ 1月9日～10日 ①シンポジウム参加「国際化する日本語（第7回 大学と科学 公開シンポジウム）」 ②文献調査（橋内武） 場所：東京千代田区，経団連ホール 国立国会図書館
- ・ 1月14日 研究会①「国公立大外国人教員任用の現状——外国人教員任用法成立10年の成果」 ②「国公立大外国人教員に関するアンケート調査項目の検討」 参加者：木下栄二，蔵田雅彦，高成廈，徐龍達，橋内武，柳父章 場所：本学，A館小会議室
- ・ 2月8日～10日 講演会参加「言語・労働移住・職場（クリストファー N. キャンドリー教授 講演シリーズ）」（橋内武） 場所：東京北区，国立国語研究所
- ・ 2月22日 研究会参加「国際先住民年について」（福田菊） 場所：東京駒場，東京大学
- ・ 3月2日～3日 ①研究会参加「共生社会実現のための戦後補償問題」 ②資料収集（徐龍達） 場所：東京，韓国民団中央本部ほか

1993年度

1993年

- ・ 5月27日 研究会「多民族国家中国の現況」 報告者：佐々木信彰 参加者：木下栄二，金学鉉，蔵田雅彦，高成廈，徐龍達，友沢昭江，橋内武，朴大栄，福田菊，柳父章，他に宋蓮玉（本学非常勤講師） 場所：大阪梅田，関西文化サロン
- ・ 6月16日 研究会「異文化間の差異と差別」 報告者：柳父章 参加者：蔵田雅彦，徐龍達，友沢昭江，他に小田亮，深澤徹 場所：本学，総合研究所
- ・ 7月1日 研究会「ミャンマーの民族と宗教」 講師：Dr. Esther Byu 参加者：徐龍達，蔵田雅彦，柳父章，他に滝澤武人，藤間繁義，沼田健哉，松原榮 場所：本学，総合研究所
- ・ 7月2日～4日 資料収集「中国民族問題に関する資料」（佐々木信彰） 場所：東京，東京大学 図書館，慶應大学図書館，東方書店ほか
- ・ 10月18日～19日 調査「東京における他民族共生の実情」（蔵田雅彦） 場所：東京，キリスト教アジア資料センター 国立国会図書館 新宿地域見学
- ・ 11月12日～13日 研究集会参加「在日韓国・朝鮮人の人権と多文化共生社会の展望について」〔民族差別と闘う連絡協議会主催〕（蔵田雅彦） 場所：広島，中国新聞社会議室
- ・ 12月6日 研究会「共生社会研究に向けて社会言語学的アプローチ」 報告者：橋内武 参加者：木下栄二，蔵田雅彦，高成廈，友沢昭江，他に長谷川存古（本学非常勤講師），学外より山本雅代（芦屋大学教員） 場所：本学，総合研究所
- ・ 12月25日～26日 ①研究会参加「『共生』をめぐる諸問題について研究報告と打合せ」（徐龍達）〔参加者：姜徳相（一橋大学），姜在彦（花園大学），金東勲（龍谷大学）〕 場所：東京，東京ガーデンパレス ②資料収集（徐龍達） 場所：東京

1994年

- ・ 1月13日 研究会「21世紀の外国人問題」 報告者：徐龍達 参加者：木下栄二，蔵田雅

- 彦, 橋内武, 柳父章 場所: 本学, 総合研究所
- ・ 1月19日～21日 国際シンポジウム参加「世界の国語研究所——言語問題の多様性をめぐって」〔国立国語研究所主催〕(橋内武) 場所: 東京北区, 国立国語研究所
 - ・ 1月31日 研究会「バイリンガリズムと言語生活」 講師: 山本雅代氏(芦屋大学教員) 参加者: 木下栄二, 蔵田雅彦, 友沢昭江, 橋内武, 他に福田稔(本学非常勤講師), 本学大学院生2名 場所: 本学, 総合研究所
 - ・ 2月17日 研究会参加「『共生』をめぐる戦後補償研究会」(徐龍達) 場所: 東京, 韓国民団中央本部

1994年度

1994年

- ・ 6月3日～4日 研究会参加「地方参政権に関する研究集会で報告: 東大法学部国際法学研究室主催」(徐龍達) 場所: 東京, 東京大学法学部
- ・ 7月21日～22日 ①研究会「定住外国人の地方参政権——共生社会の実現を目指して」 報告者: 徐龍達 ②会合「研究調整(打合せ)及び出版計画の協議」 参加者: 木下栄二, 橋内武, 柳父章 場所: 兵庫県洲本市小路谷, エクシブ淡路島
- ・ 7月23日～24日 研究会参加「敗戦50年の戦争責任: 戦後補償研究会主催」(徐龍達) 場所: 東京, ホテルグランドパレス
- ・ 10月11日 研究会「21世紀の亜細亜における文化交流」 講師: 黄聖圭氏(ソウル, 中央大学校) 参加者: 徐龍達, 柳父章, 他に下記2学会員数名 場所: 本学, 総合研究所 ※国際文化学会・人間科学会共催
- ・ 11月12日～16日 調査「中国人帰国者に面接, 言語面での日本社会における適応状況のききとり調査・通訳: 李佳坤氏(香川大学教員)」(友沢昭江) 場所: 香川県高松市
- ・ 12月6日 研究会「在日青年の文化活動と民族的アイデンティティ」 報告者: 車千代美, 朴根姫, 他に3名 参加者: 蔵田雅彦, 柳父章, 山本雅代, 他に北野誠一, 寺木伸明, 佐竹純子(本学非常勤講師) 場所: 本学, 聖アンデレ館大会議室

1995年

- ・ 1月27日～29日 研究会参加「国際理解と社会言語学: 第2回社会言語学研究会シンポジウム」(友沢昭江) 場所: 東京, 学習院大学
- ・ 2月15日～17日 調査「『共生』について文献調査——日本とアジア諸民族との共生」(柳父章) 場所: 東京, 国立国会図書館, 広尾図書館
- ・ 2月15日 研究会「中国の民族政争と朝鮮民族の文化——医療・教育における二重言語を中心に」 講師: 洪明玉氏(中国吉林省) 参加者: 蔵田雅彦, 徐龍達, 橋内武, 他に趙載国(本学非常勤講師), 佐竹純子(本学非常勤講師) 場所: 本学, 総合研究所

1994年

- ・ 4月1日～1995年3月31日 アンケート調査準備作業「国公立外国人教員に関する調査——各大学の機関・外国人教員本人宛調査票送付の予定」(木下栄二, 朴大栄) 場所: 本学, 朴研究室